FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

公立大学法人
福島県立医科大学

保健科学部 News Letter

Vol.1
創刊号
2022年3月

令和3年4月1日
保健科学部
開設

福島駅前キャンパス外観

保健科学部開設に当たって

理事長兼学長　竹之下　誠一

令和3年(2021年)4月に福島県立医科大学保健科学部が開設されました。保健科学部は、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線科学科、臨床検査学科の4学科で構成されます。福島県立医科大学にとっては3つ目の学部であり、これにより3学部6学科を有する医療系総合大学としての新たなスタートを切りました。

保健科学部は、東日本大震災と原発事故からの復興を進める本県において、不足する医療技術者を確保し、県民の健康向上に資することを目的として設置に至ったものです。震災から10年となった節目の年に、本学の新たな歴史を刻むことができたことは誠に感慨深く、設立に御尽力をいただきました関係の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

保健科学部では、経験豊富な教員の下、充実した実習機器を用いて、学生が先進的な知識・技術を身に付けられる教育環境を確保するとともに、医学部・看護学部と連携し、より専門性の高い講義や実践的にチーム医療を学ぶ機会を設けています。

これらを通じて、福島の地で医療技術者のリーダーとして活躍する医療人材をしっかりと育成し、医療体制の充実に力を尽くすとともに、地域の活性化に貢献していくことが我々の使命と考えております。

新たな歩みを始めた本学及び保健科学部に対し、今後とも温かい御支援、御協力のほどお願い申し上げます。

『保健科学部News Letter』創刊によせて

保健科学部長　矢吹　省司

令和3年1月、JR福島駅から徒歩5分という交通至便な地に、ガラスの壁面と大きな吹き抜けのホールを特徴とする近代的なビルが竣工しました。

福島市の一等地に建つこのビルをキャンパスとして開設された保健科学部は、医療人材の育成を通して福島の発展や復興に貢献することはもちろん、地域活性化も大きな期待をされています。

学部開設に当たっては、地域の方々の大変大きな支えがありました。改めて、心から感謝を申し上げたいと思います。この地で学ぶ学生には、恵まれた環境への感謝を忘れず、地域に貢献する熱い志をもって、真剣に勉強をして欲しいと願っています。

さて、令和3年4月7日に143名の新入生を迎え始動した本学部では、このたび『保健科学部News Letter』を創刊することになりました。このニュースレターでは、実習協力施設など関係の皆様、保護者の皆様、将来入学を希望される皆様、そして、応援してくれる地域の皆様などに、本学部のありのままの活動をお伝えするとともに、図書室、エントランスホール等、地域に開放される施設の情報も積極的にお届けしてまいりたいと思っております。

『保健科学部 News Letter』を通して、本学部への御理解を深めていただきますとともに、更なる御支援、御協力を賜れば幸いです。

CEREMONY

開設記念式典 （令和3年4月3日）

新設された福島駅前キャンパスで保健科学部の開設記念式典を開催しました。

竹之下理事長の式辞に続き、来賓を代表し内堀雅雄福島県知事から、「医療人材の育成による県の復興創生へ一層の貢献を期待する」「街中のにぎわい創出にも大きく寄与するもの」と期待のこもった御祝辞をいただきました。その後、知事、太田光秋福島県議会議長、木幡浩福島市長、理事長の4人でテープカットが行われました。

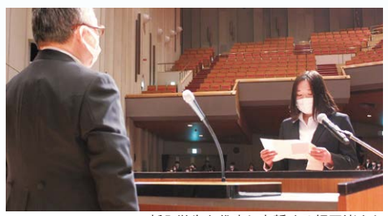
式典には、本学部の開設に御尽力をいただきました多くの御来賓、関係者の皆様に御臨席を賜ることができました。ここに厚く御礼を申し上げます。

左から福島市長、理事長、知事、県議会議長

入学式 （令和3年4月7日）

福島県文化センターにおいて、開設初年度の保健科学部新入生143名のほか、医学部、看護学部、大学院の新入生を迎えて入学式が挙行されました。

緊張と期待の入り交じった表情の学生が集う中、竹之下理事長からは、「東日本大震災を経験した福島県にある本学で医療を学ぶ者には、震災や原発事故に真摯に向き合い続ける責任がある」「医療は人のため、人の幸せを実現するためにある。常に人間中心に考えて欲しい」と式辞がありました。


新入学生を代表し宣誓する相田渚さん

これに全新入学生を代表し、保健科学部第1期生の相田渚さん（理学療法学科）が「医学・看護学・保健科学の修得に努め、豊かな人間性と優れた倫理観を養い、学生の本分を全うする」と宣誓しました。

新学部設置の期待と興奮が感じられる中、第1期生を迎え、保健科学部の歴史が始まる記念すべき日となりました。

学生GPA表彰式 （令和3年12月17日）

令和3年度前期GPA（Grade Point Average：大学成績評価値）表彰式が開催されました。

各学科成績上位1名、計4名に矢吹学部長から表彰状が手渡されました。表彰された学生からは、「先生方や友人のおかげでこのような成績を取ることができた。これからも、友人たちと高め合いながら頑張りたい。」「夢の実現に向けて今後も励みたい。」等の抱負が述べられました。

矢吹学部長（中央）と表彰を受けた皆さん

後援会の活動紹介とごあいさつ

後援会活動紹介

保健科学部後援会長　渡邉 茂

『保健科学部 News Letter』の創刊、誠におめでとうございます。

保健科学部後援会は、学生の保護者を中心に、大学の健全な発展と子ども達が安心して充実した学生生活を送ることができるよう応援するため、令和3年7月に設立されました。初年度の活動としましては、規約の整備などに加え、学生会の活動支援や学生用の家電の購入、インフルエンザワクチン接種費補助などを行っているところです。

今後、学年が上がれば、学生が実習に行くための旅費を支援するほか、国家試験を受験するための特別講義を開催するなど、学生が夢に向かって学び、生活するための支援を積極的に行っていく考えです。

新しい歴史を刻み始めた保健科学部が発展し、質の高い教育・研究が実現できるよう、精一杯応援してまいりたいと考えますので、関係の皆様方におかれましては、後援会活動への御支援、御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

TOPICS

オープンキャンパス （令和3年7月4日）

福島駅前キャンパスでの初のオープンキャンパスが開催されました。

新型コロナウイルス感染防止のため、事前申込制での開催となりましたが、申込受付開始2日間で定員の320名に達するなど、注目度の高さがうかがわれました。

当日は、各学科からの概要説明や在学生による学生生活の説明の後、実習の模擬講義などのコースが設けられ、研究機関でも導入されている高度な実習機器等に触れながら参加者は先生方の説明を熱心に聞いていました。

質問相談コーナーでは、希望者が教職員や在学生に対してカリキュラムや入試対策、学生生活について直接尋ねることができ、参加者の長い列ができていました。

定員となり申込ができなかった皆様には本当に申し訳ありませんでしたが、当日の詳しい内容については、HP(https://fmu-hs.jp/event.html)で公開していますので是非御覧ください。

全体説明会の様子

筋力・握力測定の説明の様子

作業療法で行う検査の説明の様子

3Dイメージのデモンストレーションの様子

細胞観察の体験の様子

福島県の医療環境見学実習 （令和3年10月22日）

本学部では、東日本大震災を経験した福島の地域医療や災害医療を理解し、課題に能動的に対応できる専門医療技術者を育成するための科目を設置しています。この授業の一環として、1年生全員を対象に県内の東日本大震災・原子力災害を学ぶ施設の見学実習を実施しました。

当日は、3コースに分かれて「東日本大震災・原子力災害伝承館」（双葉町）、「東京電力廃炉資料館」（富岡町）、「とみおかアーカイブ・ミュージアム」（富岡町）、「福島県環境創造センター交流棟『コミュタン福島』」（三春町）などを見学しました。

見学実習を通じて被災地の現状や課題について考えるとともに、災害医療や地域医療において専門医療技術者はどのようなことを担っていけるのかについて、学びを深めることができました。

語り部の話を聞く様子（東日本大震災・原子力災害伝承館）

展示物見学（東日本大震災・原子力災害伝承館）

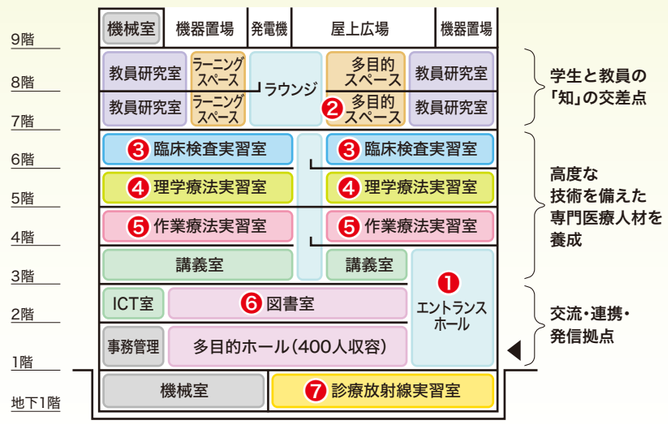
CAMPUS

キャンパス紹介

保健科学部は、JR福島駅東口徒歩5分の中心市街地に新しいキャンパスビルを建設して開設しました。保健科学部の特色と福島駅前キャンパスについてご紹介します。

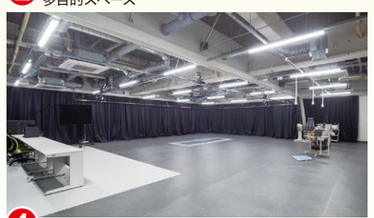
❶ エントランスホール

《階層構成》　《フロア機能》



❷ 多目的スペース

❸ 臨床検査実習室（検鏡室）


❹ 理学療法実習室（運動学実習室）

❺ 作業療法実習室（日常生活活動実習室）

❻ 図書室

❼ 診療放射線実習室（X線CT室）

保健科学部の特色

教育環境

- ●各分野に精通した経験豊富な教員を全国から招へい（67名）
- ●医療機関等で実際に使われている高度な実習機器を導入

カリキュラム

- ●県内唯一の特定機能病院である附属病院などにおいて、充実した臨床実習を実施
- ●医学部・看護学部の教員も一部の授業を担当。より専門性の高い教育を受けられる体制
- ●医学部・看護学部の学生との合同授業により、チーム医療を実践的に学べる
- ●福島県の地域医療や災害医療を学べる

地域連携の取組

県内の自治体と保健医療福祉分野などの連携・協力の取組を推進

本学部では、これまで、郡山市や飯舘村との保健医療福祉分野を中心とした連携・協力の協定に基づく取組など、県内各自治体と協力して、本学の教育・研究活動や県民の保健・医療・福祉の向上に向けた取組を進めています。

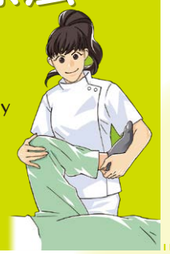
また、福島駅前キャンパスの施設の一部を開放し、将来的に中心市街地の交流の場として活用することを予定しています。（現在は新型コロナウイルス感染防止のため制限）

今後とも、県立大学として地域の活性化へ積極的に貢献してまいる考えです。

飯舘村との協定締結式（杉岡誠村長（右）と理事長）

理学療法学科

Department of Physical Therapy



理学療法士は、病気やけがで身体を動かせなくなった人に、運動療法や物理的療法（温熱や電気などを使う）を行い、立つ・歩くといった日常生活に欠かせない基本的動作を改善して、自立した生活を送れるように支援する、リハビリテーションの専門職です。附属病院や地域の施設・医学部と連携した教育や「臨床実践能力」を重視したカリキュラム構成により、保健・医療・福祉の幅広い専門技術と科学の両面から人々の生活を支えて、福島の地域医療に貢献し、日本の理学療法の発展を担う人材を育成します。

学科長
神先 秀人

小俣 純一
助教

北海道函館出身。福島県に来て10年になります。運動器疾患、特に脊椎、痛みに対する治療や研究をしています。解剖もやっています。

楠本 泰士
准教授

東京出身、運動大好き。専門は小児疾患ですが、臨床も研究も対象は0歳から100歳まで、幅広く診ています。

神先 秀人
教授

京都市出身、福島に来て2年目です。専門は運動器疾患に対する理学療法です。今年の目標は、福島と宮城の探訪です。

星 真行 助教

山形県高畠町出身。地域高齢者や介護予防を中心に研究しています。「信頼される理学療法士」を育てられるよう尽力します。

阿部 浩明 准教授

中枢神経系理学療法の臨床と研究に従事してきました。優れた理学療法士を輩出することに尽力します。

森下 慎一郎
教授

兵庫県西宮市出身、少し関西弁です。内部障害全般、特にがん患者の理学療法を専門にしています。

柴 喜崇
教授

福島での生活も一巡し地勢的特徴や人々の情が朧げながらわかるようになりました。今年はディープな領域を探索します。

横塚 美恵子
准教授

埼玉県出身です。地域理学療法と物理療法を担当します。足趾の変形と足趾把持力について研究しています。

矢吹 省司
教授（学部長）

福島県鏡石町出身です。整形外科医ですが、運動療法の重要性をすごく感じています。痛みにも効果あるんですよ。

岡崎 可奈子
助教

山形県米沢市出身。健康増進や予防の分野で活動しています。被災地支援も行っています。

髙橋 仁美
教授

秋田県出身です。内部障害と運動器を専門としています。37年の臨床経験を活かした講義を得意としています。

学生と教員の交流会

教員当てクイズや、学生からの質問コーナーなど、楽しく親睦を深めました。コロナ禍でなかなかこういった時間を持つことが難しいですが、これからも学生と教員との距離感を縮めて、学びを深めていきたいと思います。

矢吹先生とジャンケン

クイズの上位の入賞者/豪華賞品をGet！

学生の学びの様子

入学早々に実施された「臨床技術基礎演習」では、医療従事者に必要な、医療安全や感染制御、患者接遇について実習形式で学びました。

「清潔・不潔の概念とルール」の中で、ガウンテクニックを学びました

理学療法の専門科目についても、講義や実習形式で学んでいます

作業療法学科

Department of Occupational Therapy

作業療法士は、「こころ」や「からだ」の様々な障がいや不調によって生活が困難になった人が、その人らしい生活を送ることができるように支援するリハビリテーション専門職です。作業療法では、種々の活動の治療的活用や動作練習、福祉用具の導入や環境の調整などを通して、対象者の“できるようになりたい”活動（日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流など）ができるよう治療、指導、援助を行います。本学科では作業療法の高度な知識と技術、そして豊かな人間性を備えた次世代の作業療法士のリーダーを育成します。

学科長
五百川 和明

石川 陽子
講師

広島出身。広島、福岡、仙台と色々な場所で作業療法をしてきました。専門は精神科と高齢期の作業療法です。

藤田 貴昭
准教授

新潟県出身です。
脳卒中の作業療法が専門です。仙台市から車で通勤しています。

川又 寛徳 講師

いわき市出身です。会津若松市、郡山市、福島市にも住んだことがあります。専門は地域作業療法学です。

三橋 佑平 助教

北海道出身、専門は身体障害領域の作業療法です。介護者の負担感を軽減する方法について研究しています。

田中 善信
助教

北海道出身です。子どもの領域の作業療法士です。地域療育に関わる職員の支援方法について研究しています。

木村 夏実
助教

東京出身です。アニメと漫画が大好きです。初めて雪国で暮らしているのでスノボを始めたいと考えています。

曽根 稔雅
教授

出身は宮城県仙台市です。高齢者の健康を支える作業療法士を目指し、教育・臨床・研究に取り組んでいます。

倉澤 茂樹
教授

特別支援学校から通常の学級まで、園児から高校生まで、コンサルテーション活動を広めております。

五百川 和明
教授

新潟県出身。専門は身体障害領域の作業療法で、主に脳卒中やがんに関する作業療法の研究をしております。

林　博史
教授

出身は双葉郡富岡町です。専門分野は認知症で、附属病院認知症疾患医療センターでも診療しています。

澄川 幸志
准教授

出身は島根県です。陶芸や木工、革細工などさまざま作業活動を治療に活かすための授業を行っています。

はじめての臨床実習

作業療法学科1期生は入学から半年足らずの9月中旬に、介護老人保健施設等で臨床実習（見学実習）を行いました。はじめての実習のため実習前の不安も大きかったようですが、実習後のセミナーでは自身の様々な経験を堂々と発表し、実習を通して作業療法学生として大きく成長してくれたことを感じました。

教員と学生の枠を超えたワークショップ

「モノづくりを通して、楽しく作業療法を学ぼう！」をコンセプトに、作業療法学科の学生と教員が分け隔てなく自由に集い、作業療法への学びを深めるワークショップを行っています。現在は主に3Dプリンターについて、実際に機器に触れて仕組みを理解している段階ですが、今後“3Dプリンター”×“学生ならではの柔軟なアイデアや発想力”で今までの福祉用具の概念を変えてくれることに期待です。

基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ

作業療法の特徴の一つに、さまざまな活動を治療的に活用することが挙げられます。授業において各種活動を体験し、対象者の抱える課題を解決するための治療的応用について学んでいます。

診療放射線科学科

Department of Radiological Sciences

診療放射線科学科は、福島県における初めての診療放射線技師養成学科です。400床程度の病院の放射線部門と同等規模となる画像診断機器類や放射線計測器などの実験実習機器を設置し、知的好奇心を呼び起こす講義や高度な技術を教授する実験・実習を実施します。本学科では、4年間で診療放射線科学を包括的に学び、診療放射線技師として十分な能力が身につくカリキュラムを用意することで、科学的探究心と創造性を備えると共に高度な専門知識と技術を駆使して、地域医療や災害医療などに能動的に貢献できる人材を育成します。

学科長
久保　均

高橋 規之
教授

画像診断の質の向上を目的として、コンピュータ支援診断システムの研究開発を行っています。

加藤 貴弘 教授

出身は愛知県です。放射線治療技術を専門としており、陽子線治療やBNCTの普及・啓蒙活動にも力を入れています。

三輪 建太 教授

出身は長崎県です。体の中に放射線を発生する放射性同位元素を投与して、検査やがん治療を行う核医学を専門としています。

佐藤 久志
准教授

免疫療法併用放射線治療の研究や福島県の放射線災害医療・リスクコミュニケーション・がん教育等の活動も行っています。

福田 篤志
准教授

医療領域の放射線計測を通して、患者や医療従事者の被ばく線量の計測法および装置の性能評価法の開発をしています。

五月女 康作
准教授

MRIによる脳機能イメージングや放射線の正しい理解を全国に広める活動をしています。

田代 雅実
助教

臨床用X線撮影装置を用いて、臨床画像の定量的評価方法、およびX線画像の物理評価方法を研究しています。

山品 博子
講師

マンモグラフィの撮影技術向上に関する研究・教育活動をしています。東南アジアへの教育支援活動もしています。

久保　均
教授

三重県出身。西日本で修行して来ました。患者さんに優しい高精度な画像診断技術の研究をしています。

長谷川 功紀
教授

東京生まれ、関西育ち。各地を漂流、医歯薬理工と多様な分野を経て福島の保健科学部へたどり着きました。

山尾 天翔
助手

認知症診断のための脳MRI、PETを対象に、画質改善・定量性向上に関する画像解析技術の研究をしています。

オープンキャンパス

先日入学したばかりだと思っていましたが、様々な地域の友人との出会いや実習などあっという間の1年でした。この1年で印象に残っているのは初めてスタッフとして参加したオープンキャンパスです。希望に満ち溢れた高校生と話を交えることができ、新鮮な気持ちになりました。来年以降もまた参加し、より多くの人と交流していけたらと思っています。
(1期生 先崎 大樹)

放射線の正しい理解を発信

放射線に関する福島県民への偏見や差別を払拭する本学科の取り組みが環境省の「令和4年度放射線の健康影響に係る研究調査事業」に採択されました。放射線のプロである診療放射線技師が日頃培ってきた知識と経験を活用して「放射線の正しい理解」をここ福島から全国に発信し、福島県出身の若者への無用な誹謗中傷を予防するための取り組みです。同じく放射線の正しい理解促進のために環境省が実施している“ぐぐるプロジェクト”キックオフミーティング(令和3年7月開催)に小泉進次郎前環境大臣とともに本学科の五月女准教授も参加して偏見払拭への意気込みを語りました。本学の学生や診療放射線技師の各団体と連携して福島から全国へ、そして世界へ発信していきます。

臨床検査学科

Department of Clinical Laboratory Sciences

臨床検査技師は、採血検査や超音波検査などからの生体情報を最新の技術を用いて正確に測定するのが主な仕事で、そのデータが診断や治療効果判定などに役立てられます。臨床検査学科では講義と最新の機器を用いた実習を一体化した形で進め、高度な医療を支える知識と技術を修得することはもちろん、医療現場で求められる「チーム医療」を実践的に学び、さらには4年間の教育を通して研究マインドを涵養し、常に科学的な視点から臨床検査を見つめることができるサイエンティストとしての臨床検査技師の育成を目指します。

学科長
小川 一英

三浦 里織
助教

輸血・移植検査学は治療と密接に関わる分野です。身近な血液型について医療からの目線で向き合い、輸血・移植療法に貢献していきます。

高橋 一人 講師

病理検査学分野の授業を担当しています。機能形態学的手法を用いて、癌や脳変性疾患の病態解析を行っています。

鈴木 英明 准教授

細胞や組織のタンパク質の状態を正常化する機構の解明や機能性食品の探索も研究しています。

菅野 光俊
准教授

25年間臨床検査技師として大学病院勤務していました。分析化学・病態解析診断学の楽しさを伝えたいと思います。

豊川 真弘
教授

薬剤耐性菌の耐性機序の解明や病原微生物の迅速検出法に関する研究を行っています。

義久 精臣 教授

九州生まれですが福島に来て早30年となりました内科医です。診療でお世話になった臨床検査について、今度は教育する立場で取り組んでまいります。

北爪 しのぶ
教授

認知症や脳腫瘍などの診断や治療薬開発に向けた基礎研究を行っています。

小川 一英 教授(副学部長)

白血病などの血液腫瘍や骨髄移植などの造血細胞移植の診療、研究を行っています。血液診療に臨床検査が果たす役割は極めて大です。血液診療におけるイノベーションを本学の卒業生がもたらすことを願いながら教育に取り組んでいます。

宇月 美和 教授

病理医です。関節リウマチなどの膠原病の病理、遠隔医療が専門ですが、ヒアルロン酸の代謝をライフワークにしております。

堀越 裕子 助教

脈波を用いた動脈硬化の研究をしています。心臓超音波検査を中心とした、人と直接対峙して行う生理検査を専門としています。

オープンキャンパス

コロナ禍で人数制限はありましたが、参加者に超音波検査、検鏡検査、尿試験紙検査を体験してもらいました。学生には参加者の誘導や、学生相談コーナーで体験談等を伝えてもらいました。

学生相談コーナー

大学生プレゼン部門優秀賞受賞

2022年2月28日、福島県民に向けられた放射線に係る風評被害を払拭するために環境省が立ち上げた「ぐぐるプロジェクト」の大学生プレゼン部門発表会が都内で開催されました。この発表会において本学科1年生の佐藤寿美さんが優秀賞を受賞しました。福島県出身の若者にしか語ることができない生の声を切実かつ前向きに発信して多くの審査員の心に強く訴えかけました。また、全国から集まった他大学の学生とも交流して放射線に係る偏見・差別を無くすための活動について語り合いました。 (※1)左ページ記事参照)

受賞した佐藤寿美さん

講義・実習の様子

1年目は教養教育科目や、専門基礎科目を中心に学びました。4学科共通科目や実習形式も多く、医療人としての心構えや専門科目の基礎を学びました。

総合科学教育研究センター

Center for Integrated Sciences and Humanities

総合科学教育研究センターは、倫理学・社会学・言語学・外国語・化学・生物学・物理学・数学・統計学など、学部の一般教養教育を担っています。人文社会学科系と自然科学系の授業・研究を通して、幅広い教養と多様な問題への解決能力を身につけた医療人の育成に貢献します。

佐々木 道子
教授

化学の講義と実験を担当しています。専門は有機合成化学で，新規合成反応の開発に取り組んでいます。

久保田 恵佑
講師

英語の授業を担当しています。英語教育・言語評価が専門で，現在は技能統合型ライティングの評価研究に取り組んでいます。

本多 創史
教授

最近の研究テーマは近代日本の優生学です。また、「生命倫理学」や「歴史と社会」などの科目を担当しています。

有吉 健太郎
准教授

放射線の細胞・個体への影響を研究しています。福島の野生動物への放射線影響も調べています。

安田 尚子
教授

言語学と英語の授業を担当しています。専門は発音指導、ライティング、漫画を使った英語教育です。

柴田 恭子
准教授

主に統計学を担当しています。健康増進・疾病予防につながる仮説の検証、データ解析研究を行っています。

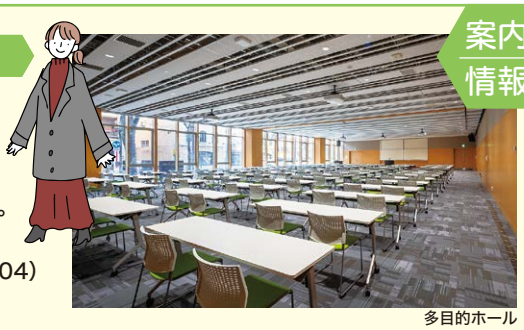
案内情報

貸出案内

多目的ホール

多目的ホール（最大400人収容）は大学が関与する地域の交流事業などへの貸出が可能です。

▶詳しくは
事務室総務係（024-581-5504）
までお問い合わせください。



多目的ホール

利用案内

図書室・エントランスホール

キャンパス内の図書室、エントランスホールは、現在、新型コロナウイルス感染予防のため関係者のみの利用としておりますが、将来的には一般の方も利用できるよう開放する予定です。利用できるようになった際にはご案内をいたします。

学部紹介動画

YouTube動画公開

保健科学部を紹介する動画を作成しました。YouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください。

動画はコチラ▶

販売案内

お弁当販売

キャンパス内に学生食堂はありませんが、福島商工会議所のご協力により、授業のある日のお昼（12:00〜13:00）時間中、エントランスホールでお弁当などの販売を行っております。一般の方も購入が可能ですので是非ご利用ください。

学部カレンダー

2022年4月→2023年3月

◆入学式◆
4月6日（水）

◆新入生オリエンテーション◆
4月7日（木）

◆開学記念日◆
6月18日（土）

◆オープンキャンパス◆
7月2日（土）

◆定期試験（前期）◆
8月1日（月）〜8月5日（金）

◆夏季休業◆
8月8日（月）〜9月22日（木）

◆光翔祭◆
10月8日（土）〜10月9日（日）

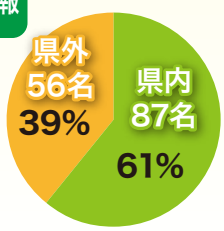
◆定期試験（後期）◆
2月6日（月）〜2月10日（金）

◆春季休業◆
2月13日（月）〜

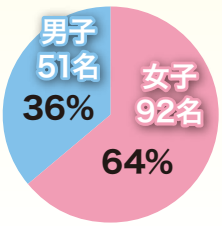
CALENDAR

入試関連情報

〈令和3年度入学生の地域・男女別内訳〉
（入学者143名）



地域別



男女別

編集後記

この度、『保健科学部News Letter』を刊行する運びとなり、ここに記念すべき創刊号を発刊することができました。創刊号ということで教員の自己紹介を中心に年間を通した学内の様子をご紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。

保健科学部は、2021年4月に産声を上げたわけですが、コロナ禍の中、全てが手探り状態であったことから、当初は広報紙作成まで考えが至っていませんでした。しかし、時間の経過とともに次第に学部運営も軌道に乗ってきたこともあり、"広報紙を作ろう"という機運が高まり、短い期間ではありましたが、何とか形にすることができました。学生たちも含め、ご協力いただきました関係者の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

本紙は今後、年2回（9月・3月）のスケジュールで定期発刊させていただくことになっています。産声を上げたばかりの保健科学部をより多くの皆様に知っていただくためにホットな話題をこれからも提供してまいりますので是非ご期待ください。

広報委員長 加藤 貴弘

公立大学法人
福島県立医科大学

発行／福島県立医科大学保健科学部
〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号 福島駅前キャンパス
TEL 024-581-5503　FAX 024-581-5528

発行年月日／令和4年3月1日

▶お問合せはこちらまで
https://fmu-hs.jp/